

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	後藤 亮	学校名	東京 私立 中高一貫 校 明治大学付属明治中学校
担当教科等	英語	対象学年 (人数)	中学 2 年 E 組 (34 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2020 年 10 月 ~ 11 月 (7 時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 特別の教科 道徳、HR、特別活動		
2. 単元(活動)名：SDGsのレンズを通して社会に目を向けよう		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「ゼロハンガーチャレンジ・エキスパートへのインタビューで社会問題をジブンゴトに」 単元目標：身近な問題「食糧問題」を多面的・多角的な視野で捉え、自分たちに出来ることを考える。 関連する学習指導要領上の目標：身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てよう努める。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	写真や資料を見て、SDGs との関連性を持ちながら食糧問題の現状を理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	収集した情報や身に付けた知識をもとに、自分の考えたことをまとめたり、それを話し合うことが出来る。
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・協同学習を通して、他者の意見や考えに耳を傾け、自分にはなかった視点に気付くことが出来る。 ・学びを深めていくにつれ、自分なりに疑問を持ったり、批判的な視点で課題を見ることが出来る。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 世界、そして日本にある社会課題に目を向けていく中で、まずは身近な「食」に関する問題を切り口に生徒の興味を喚起したり、SNSによる表現活動やエキスパートへのインタビューといった体験を通して、社会問題をより自身にも関係のあることであると認識を持ってもらいたく設定した。</p> <p>【単元の意義】 「東京・私学」という恵まれた環境に身を置く本校生徒にも社会課題は身近に存在することを気付かせることで、「自分たちにも出来ることがあるのではないか」という考えを持ち、行動へと繋がせる。</p> <p>【生徒観】 本校は100年以上の歴史のある私立大学直系付属の中高一貫校であり、「質実剛健・独立自治」の校訓の下に指導が行われている。自主的に校外での活動や学習を行う生徒もいる一方で、広い視野を持つことに前向きでなかったり、自分自身の興味を広げることに関心の薄い生徒も見られる。裕福な家庭出身の生徒も多いせいか、日本にある課題についての関心も比較的低いと言える。世界の諸問題や日本に存在する問題に関連付け、生徒自身にも関わる社会問題であることを意識し、理解させることでより外に対する意識を持たせるように留意したい。</p>	

	<p>【指導観】</p> <p>本校には独自のカリキュラムによりいわゆる「総合的な学習の時間」が時間割として組み込まれていない。その代わりに特別活動の一環で、中学1年次に「本の紹介文コンクール」、中学2年次に「作文コンクール」、中学3年次と高校1年次に「英語スピーチコンテスト」、そして高校2・3年次に「イングリッシュ・プレゼンテーションコンテスト」がある。それら学校企画や普段の各教科との連携を図ることで、今回行っているような学びが今年度のみ単発的なものではなく、より総合的・統合的な指導により生徒たちの学びを有機的なものへとさせていきたい。</p> <p>また本校では「独立自治」という校訓の下、宿泊行事やその他行事はもちろんのこと、日常の学校生活においても生徒たちの独自性・主体性が尊重されている。SDGsを通じた学びによって、より生徒たちの主体性・協同性を育むきっかけとしたい。</p>
--	--

6. 単元計画 (全 7 時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	“SDGs Day” に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧問題について知る ・日本の輸出入事情について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「モノはどこから来る？」カードゲームを通して日本にあるモノが他国から予想よりも多いことに気付く。 ・WFP のウェブページより「ゼロハンガーチャレンジ」について触れ、自分たちが出来ることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「モノはどこからくる？」カードゲーム
2	食材から他国と日本を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率について考える。 ・写真を通して食の在り方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、そして東京の食料自給率を知り、他国や他の地域に頼っていること、見えないように繋がっていることを理解する。 ・フォトランゲージ 多くの国や地域の家庭の食に関する写真を比較検討し、話し合いを通じながらその類似点や相違点について考える。 	「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR)
3	・食糧問題と難民問題	<ul style="list-style-type: none"> ・難民の生活を知る。 ・日本の難民受け入れ現状について考える。 ・WFP について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を比較しながら難民の生活について理解をする。 ・日本の現状や支援について知識を得たり、話し合いを通じて考える。 	「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR)
4	・難民問題と国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・難民問題について考える。 ・日本の現状と国際貢献の必要性について触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に引き続いて、食糧を通して難民問題を知り、その上で世界で起きていることや日本の現状について考える。 ・日本の現状について触れた上で、国際貢献の必要性について話し合う。 	「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR)
5 本時	・SDGs Day のインタビューに向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・三団体（こども食堂・WFP・サラダコスモ）について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー法による記事の読解 それぞれの団体に関する記事を読み、グループでシェアを行う。 ・グループごとに質問の作成 ・インタビューの練習を行う。 	新聞記事
6	・SDGs Day に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の続き グループで出てきた質問をクラスでシェア ・ゼロハンガーチャレンジ グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・三団体バランスよく、また様々な視点の質問を生徒たちと共に選ぶ。 ・グループによる発表。 なぜその写真にしたかななどの背景を語る。 	

7 (11/10)	SDGs Day	・三団体の発表	・インタビュー形式で行う。事前準備したものに加えて、先方が話した内容についても質問を行う。 ・前時でクラス内シェアをしたそれぞれのゼロハンガーチャレンジについていくつか講評をいただく。
8	SDGs Dayの振り返り	・三団体それぞれの振り返り	・ペア/グループ/クラスで話し合いを行って、どんなことを学んだかを振り返る。 ・振り返り用紙を書くことによって最後は個人に落とし込むようにする。

7. 本時の展開 (5 時間目)			
本時のねらい: 「エキスパート」の取り組みを知って、自分たちに出来ることを考えよう。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	○ 「ゼロハンガーチャレンジ」について発表 ・ 4～5人組で写真を見せ合い、簡単に発表を行う。 ○ SDGs Day について ・ 三団体にインタビューを行う。	・グループの進捗状況を確認する。 ・グループ毎に回収をし、HR委員に渡す。 ・来週数枚絞って発表を行う。 ・ただ「聞く」のではなく「インタビューを行う」という意識付けを行う。	
展開 (30分)	○ ジグソー法を用いて資料を読み解く ・ 3人グループを作る。 ・ SDGs Day で話を聞く三団体について知る。 発問: どの団体もどういった意識で社会貢献をしているんだろう? その人たちの生きがいは? エキスパート それぞれ一つのグループを A: こども食堂、B: WFP, C: ギアリンクスの3つのグループに分かれて、ABCそれぞれの活動内容をエキスパートのグループの中で読み解く。	・事前にグループを決めておく。 ・座席移動をスムーズに行うよう促す。	・三団体に関する新聞記事

<p>まとめ (5分)</p>	<p>ジグソー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み解いた3種類の記事を元のグループに戻ってシェアを行う。 ・話し合った中で特に感銘を受けたところ、自分でも出来ると思ったところ、そしてインタビューで聞いてみたいと思ったところを話し合う。 <p>クロストーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くのグループと意見を交換する。 ・グループで話し合ったことをクラスで発表。 <p>インタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業に来校された方々にグループ単位でインタビューをする。 ・SDGs Day 本番に聞きたいこと、今後調べてみたいことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会役／書記役といった役割を決めて行う。 ・話し合った内容に加えて、疑問点についても案が出るように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューシート
----------------------------	---	--	--

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・既有知識や経験をもとに、読み解いた情報を組み合わせて疑問点（質問したい点）について話し合っている。【観察・ワークシート】
- ・他者との協働学習を通してインタビューを行う団体の背景について理解することが出来る【観察】
- ・グループによる読解や話し合いに主体的に取り組んでいる。【観察・ワークシート】

9. 学習方法及び外部との連携

(1) SDGs Day

11月10日(火)にゲストティーチャーを招いて講演・生徒のインタビューに答えていただくといった形式で学年生徒全員に対する意識の高揚を図った。

A. こども食堂かくしょう寺 代表細川さん

本校より徒歩10分にあるお寺覚證寺の住職でもあり、そこで開催されるこども食堂の代表も務める細川さんに来ていただく。本校にすぐ近くにこども食堂がある事実、そういった取り組みがあるといったことを知ってもらいたい、そして住職がこども食堂を始めた思いなどを知ってもらいたく参加をお願いした。

B. WFP (国際連合食糧企画) 由佐さん

学年教員の知り合いであり、今回2学期に取り組む企画「ゼロハンガーチャレンジ」をキャンペーンするWFPに勤務しており、WFPという組織やその活動内容、そして必要とされる社会情勢や背景を生徒達に知ってもらいたく参加をお願いした。

C. サラダコスモ／ギアリンクス社長 中田さん

2020年度教師海外研修代替の国内研修でお話を聞かせていただいた経緯よりぜひ生徒達にも中田さんがギアリンクス社

を通してパラグアイとの架け橋となったこと、大震災という有事において行動に移せたことの背景やその情熱を伝えていただきたく参加をお願いした。

SDGs Day に関しては本校にあるホールに学年一同を集めて学年集会として行う。ただ一方的に話を聞くというのではなく、事前指導において三団体について学び、当日においても聞いた話をインタビュー形式にして質問をすることで出来るだけ生徒たちが前のめりになって聞けるようにする。

(2) 学年活動

3学期は「気候変動」を切り口に社会問題について議論をする展開を進めている。2月16日にはOBである鈴木秀彦 明治大学准教授より南極観測隊に参加した経緯に加え、ご自身の研究と気候変動に関するお話を聞く機会を設けている。11月同様一方的な講義形式ではなく、事前学習をした上で生徒から質問をするような構成で行う。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

(1) 校内掲示物・学年文庫の設置

校内廊下にSDGsに関すること、今回取り組んだ「ゼロハンガーチャレンジ」に関する情報を掲示した。また学びを深める一環として中学2年廊下にSDGs関連本やその他社会問題に触れた書籍や絵本等を並べた。



(2) 文化祭学年展示

道徳の授業の中でまず1学期はSDGs そのものについて学んだ。それら学んだものを「見える化」するために模造紙にそれぞれのグループが選んだSDGsのゴールをまとめたものをイラスト等を交えて書いたものを文化祭の展示物の一つとして掲示した。



(3) 学年教員との連携

今年度の道徳の授業は学年統一事項のものを行うこととなり、年間を通してSDGsについて、そして「SDGsのレンズを通して社会に目を向けよう」という共通目標を持って指導をしている。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>指導観でも書いたが、「総合的な学習の時間」がないため、各クラスで共通事項として指導が出来るのは唯一道徳の授業であったため、その時間を使い指導をしていたが行事等が入るたびにそれに関する決め事をしなくてはいけなり、指導の時間が少ないクラスも見られた。また教科指導等においてもペア・グループワークを用いる教科は少なくまず慣れてもらうことに時間が掛かってしまった。</p> <p>新聞の資料を集める際、どれがその団体を表すものかと生徒の興味関心に合わせた記事選びの両立が難しく、普段より新聞をスクラップをしたり、SDGs Day に向けた委員を立ち上げたのであるが、彼らに頼むなどしていれば、より早く事前準備が出来たように思う。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>ジグソーリーディングの際、手順の流れに重きを置いてしまったため、生徒の読みが浅くなってしまったように感じた。クロストークによるシェアまでたどり着くことは出来たが記事の表面部分に触っただけの理解および意見も見られた。発問をするタイミングや内容をより精査し、生徒の読みが深まった上での議論とクラス内シェアで出来るように工夫が必要である。</p> <p>また生徒の中にも学期を SDGs や外の世界に関心を大いに抱くのもいれば、まだヒトゴトと感じてしまう生徒もいた状態であったので、そのギャップを埋める段階が必要であったと感じている。</p> <p>SDGs Day に向かっては主にHR委員やボランティアを中心に組織を作っていたがもう少し学年全体を巻き込めるシステムを構築しておくべきであった。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>①生徒の変容：教科だけでなく、ネットやテレビの情報を得て、「これって SDGs に関連するんでは？」と考えることが出来るようになった。中学生徒会長選挙の際、「SDGs を通して学校をより良くする。」という公約・目標が生まれるなど自分たちの手で周りの環境を良くするという意識が芽生えたように思われる。</p> <p>SDGs Day に来てくださった子ども食堂に新型コロナが収まればぜひ貢献したい、他にも学校の地域や自分の住んでいる地域で同じように活動している団体がないか調べてみたり、参加を考えている生徒も見られた。</p> <p>また zoom や電話などで保護者と会話をする際も SDGs の話しが出るようになり、家庭内でも SDGs について話す機会があったと報告を受けた。</p> <p>②教員の変容：各教科の各単元を指導する際に SDGs を絡めて指導をしたなどの声が聞こえるようになった。他学年の教員より「SDGs って何?」、「SDGs と自分の教科を関連して教えてみたいのだけどどうすれば良い?」などの相談も増えた。</p>

14. 学びの軌跡
 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

・SDGs Day 当日のメモ・ふりかえりシートより

1.

インタビューシート①

～この人に学ぶ!～

11月10日(火)		場所 ホール	天気 ☀️
① ゲスト名 中田 智洋 社長	② 職種 サラダコモノ 社長		
③ メモ ・民間企業から緊急事態に備える。 ・南米←日本 30万人移住 (大さく5箇所) → 応募 ・「ブラジルの人は日本の事を『母国』という。→ 寄付金(100万円) 住む方を5 ・「ブラジルの人の豆腐を届けてくれて、とても嬉しい。3000万円 [30万]の豆腐を届けて ・総理大臣の感謝状 出された。			
Q1 なぜその仕事を始めた?	Q2 中学時代の志向を教えてください。		
A. 民間人でも食料確保などの問題を解決したいと考えたから。	A. 社会が好きで、世界地図をよく見ていた。		
Q3 将来どのような企業を目指していますか?	Q4 金銭面はどのように乗り越えました?		
A. 野菜の種までオーガニックでつくっている社会に胸を張って生きたい。	A. お金は人のために使うと、皆が喜んでくれる。心が豊かになると嬉しい。		
Q5 東日本大震災の連絡を受けた時、どう思った?	Q6 食料危機になった時、なぜ行動しようと思った?		
A. 涙が止まらなかった。次どうしようかを第一に考えた。	A. 若い時から、困っている人を助けることが自分の幸せ。素晴らしい人生を歩みたい。		

2.

ふりかえりシート (お話をきいて/後日記入・提出)

★この仕事のイメージは? お話の前と後では? 自分のお金や生活をきせいにして正直生きていくのかと思っていていたが、お話を聞いて、本当に人のために働いていることがすぐ伝わった。	★私が驚いたことは? スゴイと思ったことは? 民間人でも、人の役に立つことができるような仕事をしたいということが理由で今の仕事をしているということに驚いた。
★私がうれしかったことは? 食料自給率について詳しく発言してくれたことがうれしかった。 企業の将来的な設計図を聞いた。	★とても印象に残っている言葉や考えは? 自分が困っている人達を支援することがかが幸せ。
★私が考えたこと、自分も見習いたいことは? 人の役に立つということを第一に考えたい。 人が喜ぶことが自分にとって幸福として、生きたい。	★さらに聞いてみたいことは? 疑問は? 結婚しているのかを聞いてみたい。 移住した人達の暮らしについてもっと聞きたい。

3.

心りかえりシート (お話をきいて/後日記入・提出)

<p>★この仕事のイメージは？ お話の前と後では？</p> <p>前、お金が^たた^たた^たの^た経営が^た厳しい 少し大変な子どもたち^たが^た行く 場所の子どもが^たたくさんある</p> <p>後、地域の人々の支援により成り立つ 「誰」でも行ける。ボランティアできる 大人でも行ける、遊べる。</p>	<p>★私が驚いたことは？ スゴイと思ったことは？</p> <p>おえらいさんだからと^たいて^たが^た 夜えす！ フラットな立場が 良いということ 需要と供給を考えた活動も 計画すること。</p>
<p>★私がうれしかったことは？</p> <p>私たちの近くに子ども食堂があり 少しずつ大変な子どもたちが 救われていること。 子どもたちがおいしいご飯を お腹いっぱい食べられること。</p>	<p>★とても印象に残っている言葉や考えは？</p> <p>信念はなし！ その場の状況で「エネルギー」を使う。 子どもの貧困について 身近な子どもの貧困について 考える。 <small>「上の人は何かを」</small> 上下の立場の考えは^た嫌い。 <small>「言わば」</small></p>
<p>★私が考えたこと、自分も見習いたいことは？</p> <p>子ども食堂に来る子どもたちの 面目を気にして、誰でも 来られる雰囲気づくりをして いるということ。 ⇒ 他の人の立場に立つこと。</p>	<p>★さらに聞いてみたいことは？ 疑問は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象的なエピソード。(子ども) ・「T」の仕組み。 ・Xメニュー「和洋川」が好きな (みんなに人気の)ものは？ ・ボランティアの方々のエピソード。

4.

心りかえりシート (お話をきいて/後日記入・提出)

<p>★この仕事のイメージは？ お話の前と後では？</p> <p>国連ってすごい大変でか^たに^た子 ものだ^たと思^たっていた。 でも、AACのつらいと^た関わ^た 自分の^たあ^たを^た実感^たでき^た るのか^た、と思^たった。</p>	<p>★私が驚いたことは？ スゴイと思ったことは？</p> <p>カカオを^たい^たい^た子^たも^たち^たが^た という^たは^た知^たら^たい^たた^た、^た実際^た 見^たると^た本^た当^たに^たい^たは^た 思^たった。 こ^たれ^たは^た本^た当^たに^たい^たは^た 思^たった。</p>
<p>★私がうれしかったことは？</p> <p>カカオを^たと^たっている^た子^た供^た 私^た達^たより^たと^た苦^たしい^た生^た活^た 送^たっている^たは^た私^ただけ^た、^たそ^たの^た中^た で^たも^たそ^たれ^たが^た大^た切^たな^た時^た間^た、^た楽^た し^たい^た時^た間^たが^たあ^たっ^たて^た良^たか^たった。</p>	<p>★とても印象に残っている言葉や考えは？</p> <p>「夫は目の前で粉を^た 子どもを^たつ^たか^たか^た という^た難^た民^たの^た言^た葉^た。 こ^たれ^たが^た普^た通^たに^たま^たま^たで^たは^た世^た の中^たは^た良^たく^た付^た合^たい^たと思^たった。</p>
<p>★私が考えたこと、自分も見習いたいことは？</p> <p>カカオを^たと^たっている^た子^た供^た 保^た護^た施^た設^たに^た入^たれ^たた^たら^た、 チョコレートは^たこ^たれ^たが^た高^た価^た で^たは^た子^たの^たお^たも^たち^たが^たチョコレートが^た ば^たか^たら^た、^たい^たう^たな^たこ^たも^たあ^たま^たる^た のか^たと思^たった、^た考^たえ^たた。</p>	<p>★さらに聞いてみたいことは？ 疑問は？</p> <p>カカオを^たと^たっている^た子^た供^た ど^たう^たい^たう^た世^たの中^たに^た付^た合^たは^た学^た校^た に^た行^たっ^たて^た、^た自^た由^たな^た時^た間^たを^た楽^た し^たい^たる^たのか^た。 そ^たの^たた^ため^たに^たは^た私^た達^たに^たど^たう^たい^たっ^た 取^た組^たみ^たが^たでき^たる^たのか^た。</p>

・SDGs Day に向けて「ゼロハンガーチャレンジ」に取り組んだが、実際に自分で SNS に投稿したり、自分たちで廊下にある掲示板を使用するようになった。



15. 授業者による自由記述

2020 年度の研修は新型コロナウイルスの世界的な流行により現地に行くことは残念ながら叶わなかったが、国内研修に参加し、研究授業を行うにあたって自分の教員としての視野や知見を広げることが出来た。SDGs というゴールを掲げ、その上そのゴールに向かって逆算をしてプロセスを踏むのは今回のような指導に限らず、教科・分掌など全ての学校の活動に繋がりを。

今年度は道徳・HR の授業においてほぼ全て共通の内容を担当学年に指導するため、共通指導案を学年担当者と相談しながら作成していった。足りない知識を補ったり、クラスによって少し微調整をしたりと、会話をしていく中でお互いに「どういった生徒を育てていきたいか。」という教育の根幹とも言えるものについて実は今まで共有できていなかったことを話し合うことが

	<p>でき、今まで以上に生徒たちの様子の観察し、生徒たちのことを考える時間を持つことができた。 今回研修を通して教員として大いに考えさせられ、一人の人間として成長をするきっかけを与えていただいた。来年度以降も生徒と共に SDGs の視点から挑戦をしていきたい。</p>
--	--

参考資料：

- ・「モノはどこからくる？」カードゲーム JICA 東京
- ・「写真で学ぼう！ 地球の食卓」開発教育協会(DEAR)
- ・各社新聞記事（東京新聞／朝日新聞／岐阜新聞／日本経済新聞／朝日中高生新聞／読売中高生新聞）
- ・「世界から飢餓を終わらせるための30の方法」ハンガー・フリー・ワールド編（合同出版）
- ・冊子「私たちが目指す世界 子どものための持続可能な開発目標(SDGs)」セーブ・ザ・チルドレン
- ・株式会社ギアリンクス
<http://www.gialinks.jp/>
- ・こども食堂かくしょうじ
<https://syokudou.kakushoji.or.jp/>
- ・国連 WFP 世界食料デー キャンペーン 2020
<https://www.jawfp.org/worldfoodday2020/index.php#about>